

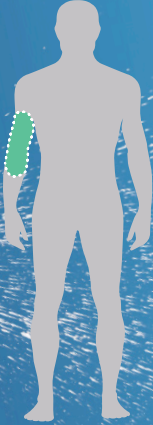
CASE STUDY

James H. Holmes IV, MD, FACS / Wake Forest
Baptist Medical Center, Winston-Salem, NC

患者の状態

自動車の爆発により、深達性部分層熱傷と全層熱傷を受傷した女性患者。受傷部位は、顔面部、頸部、両腕、両脚。本症例では、3:1網状分層植皮(STSG)とSpray-On Skin™Cellsを組み合わせ治療した右腕の全層熱傷に注目する。

RECELL治療部位



結語

本症例により、人工真皮と高倍率自家網状植皮とRECELLの組合せ治療により全層熱傷の治療が成功することが示された。

高倍率自家網状植皮の上からRECELLを使用することにより、表皮の再生と創部の完全上皮化のための採皮面積を縮小することが可能となる。

RECELL[®]システムと人工真皮および網状植皮を組合せた全層熱傷治療により、完全上皮化という優れたアウトカムが得られた。

自家植皮前



術後1週



術後3か月



術後12か月



治療法

この患者の治療は、人道的使用の前向き評価の一環として実施された。受傷から約4日後、Versajet™システムを使用し、デブリードマンを実施した後、Integra®真皮欠損用グラフトを使用した(図A)。Integra使用から13日後(図A)、3:1網状STSGを前腕部に移植し、RECELLシステムで作成したSpray-On Skin™Cellsを網状植皮の上から適用した。治療部位の被覆にはTelfa™Clear、その上からXeroform™及び厚みのあるドレッシング材を使用した。

臨床的アウトカム

RECELL使用から7日後、創部の75%が再上皮化(図B)し、1か月が経過するまでに完全上皮化が得られた。3か月間(図C)に色素とテクスチャーに若干のミスマッチが見られたものの、血色の点で周辺組織と馴染みつつあった。術後1年では皮膚の質において更なる改善が確認され、色調、テクスチャー、色素再生において優れた結果が示された(図D)。長期フォローアップにおける皮膚強度の問題は報告されていない。